

すみた 議会だより



「おしゃべりしながら、
ひなたぼっこ」

《有住保育園》

3月議会で決まったこと ②

町の将来を見据え(29年度予算審議) ④

我が町政を問う(8議員が一般質問) ⑧

住高生議会傍聴 ⑬

特集「第6次農業基本計画」 ⑱

分署 増額変更で 6億2000万円に



△ 庁舎交流プラザに展示されている新消防住田分署模型：来年3月完成に向け準備が進められている。

3月定例会は、3月2日から3月13日までの12日間の会期で開かれ、町長施政方針演説、教育委員長教育行政演説の後、8議員が登壇し町政諸課題について一般質問を行いました。

その他、平成28年度補正予算、条例の制定・一部改正、損害賠償事件に関する専決処分報告・教育委員の同意、平成29年度当初予算などを審議し、全議案を原案のとおり可決しました。

☆新年度の主な事業

◆住民交流拠点施設整備事業	753万円	◆中心地域・中心商店街活性化事業	170万円
◆地域交付金	400万円	◆農業機械等導入支援事業費補助金	897万円
◆生活道路整備事業費補助金	100万円	◆飼料用米生産拡大事業費補助金	240万円
◆飲料水施設整備事業	1400万円	◆森林・林業再生基盤づくり交付金事業	789万円
◆シカ等有害捕獲事業	2903万円	◆住宅リフォーム事業費補助金	1500万円
◆食いくプロジェクト	725万円	◆消防屯所整備事業	2946万円
◆木いくプロジェクト	1036万円	◆栗木鉄山跡地整備事業	1000万円

町長施政方針（要旨）

安倍内閣総理大臣は、平成29年1月の施政方針演説において、「自分たちの未来を、自らの創意工夫と努力で切り拓く、地方の意欲的なチャレンジを、自由度の高い「地方創生交付金」によって後押しします。そうした地方の皆さんを全力で応援します。」と述べました。

本町においては、平成27年度に策定し、本年度から実施している「住田町人口ビジョン・総合戦略・総合計画」の着実な推進を図り、結婚・出産・子育ての切れ目のない支援、居住環境向上への支援、仕事づくりへの支援をしてまいります。

地域づくりにおいては、人的支援、地域予算制度を導入した財政的な支援などを進め、地区公民館を中心とする「小さな拠点」づくりによる地域振興を支援してまいります。

（詳しくは3月25日号「広報すみた」をご覧ください）



△ 施政方針演説を行う多田町長



△ 生活道路整備補助は、100万円以上の工事対象の見直しをすべきだが。

消防

新 住田

生活道

**整備事業費を使い易く、
2年間実績がなく、再検討**

問 新消防住田分署8721万円増額変更の理由は。
答 主な要因は、①建物の面積増。当初765㎡が176㎡増えた。②新しい木材利用工法のCLT材使用。③敷地面積が寄付などを頂いたことにより400㎡増え、敷地造成費増による。

問 00万円を見込んでいる。財源の主なものは何か。
答 財源は、緊急防災減災事業債5億9520万円と一般財源2750万円を予定している。
問 大震災時の上水道損壊に備え、井戸水の活用をすべきではないか。
答 調査の経緯で、かなり掘り下げないと水の確保ができないことから、今回は建築に含めていない。
問 住田町をPRできる建物になるか。
答 木質の構造でありPRできる建物になる。

問 生活道路整備事業費補助金400万円が、全て減額される。町道以外を個人が整備する為に良い事業だが、もっと使い易い制度変更を。
答 平成26年度は、2件の実績があった。27、28年度は申込みが無く、再三制度の見直しを指摘された。今後検討をしていく。

町有林

**売払い代金減額は
伐採面積減による**

問 町有林収入2800万円減額する理由は。
答 当初予算で20畝面積分予算化。結果として3事業区10畝の伐採実績となった。

**質才
木バイ**
**起債廃止の計画は
新エネルギーで**

問 木質バイオマスエネルギー推進施設整備事業が起債廃止となる。その理由と今後どう施策展開する考えか。
答 民間事業者が導入予定のチップ製造機の起債を廃止した。現在、新たなエネルギーバイジンを策定中で、その中で林地残材も含めた有効活用を考えて行く。

**護
介**
**家族介護手当増額を
情報集め検討**

問 在宅介護の期待が高まる中、家族介護手当の見直しを。
答 状況、情報集め検討。

**権理
債管**
**取り組み状況は
私債権も含め検討**

問 町貸付金に係る債権管理方針、管理条例の取り組み状況は。
答 公債権のほか私債権の内容について、管理の運用システム、その整備など今後検討していく。

**健動
保活**
**大股地区の対応いかに
遠隔地全体を考えて**

問 上代医院閉院に伴い月2回の大股地区への出張診療が無くなった。今後の対応策はいかに。
答 大股地区の保健活動だけのことではなく、町全体の遠隔地を考える必要がある。

**見度
後制**
**制度の周知図れ
各媒体通じ取り組む**

問 成年後見制度は、介護

保険制度と高齢化社会を支える車の両輪。制度の周知を図るべき。
問 周知は各媒体を通じ取り組む。新年度、市民後見制度の推進も行う。

**業会
農委**
**農業委員と
推進委員の役割は
議決権の有る無し**

問 今回の法改正による農業委員と農地利用最適化推進委員との違いは。
答 法改正による農業委員は、町長が議会の同意を得て任命し、農地利用最適化推進委員は、農業委員会が委嘱する。総会における議決権は、推進委員には無いが会議に出席して意見を述べることはできる。



新選挙管理委員長 同意
平 勝太郎
75歳
住所：世田米字大崎



人権擁護委員……再任
千葉 輝子
73歳
住所：世田米字城内



新教育委員……同意
畠山 優子
53歳
住所：世田米字川向

46億2700万円

平成29年度

総合戦略施策推進・「小さな拠点づくり」支援

予算総額 67億6742万円

町の各種事業を行うための平成29年度予算を可決しました。

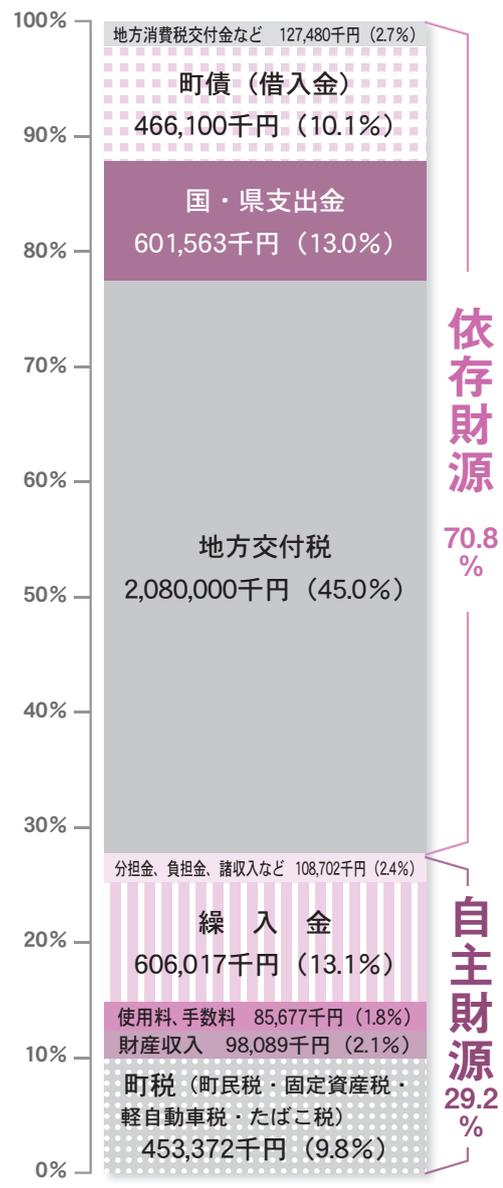
一般会計は、前年度の当初予算と比較すると5億8700万円（11.3%）減の46億

2700万円となりました。

特別会計21億4042万円（前年度当初比2.6%減）を加えた総額は、67億674

2万円（同8.7%減）となりました。

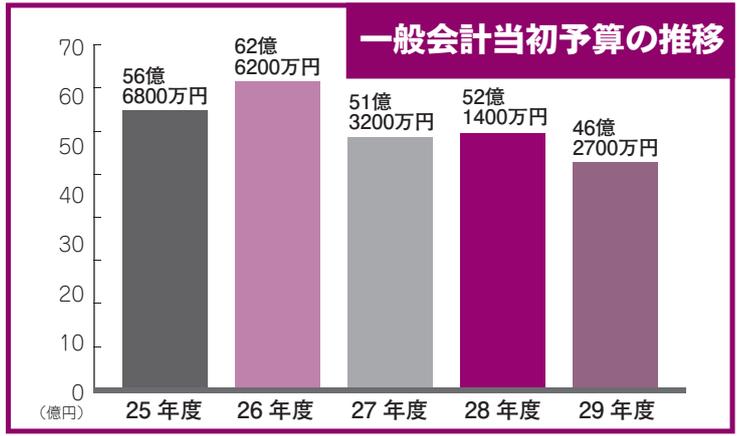
総合戦略に盛り込んだ施策推進や地区公民館を中心とする「小さな拠点づくり」などを推進して、住みよい社会づくりの実現を掲げています。



歳入



△ 解体される旧大股小学校とプール



委員長報告

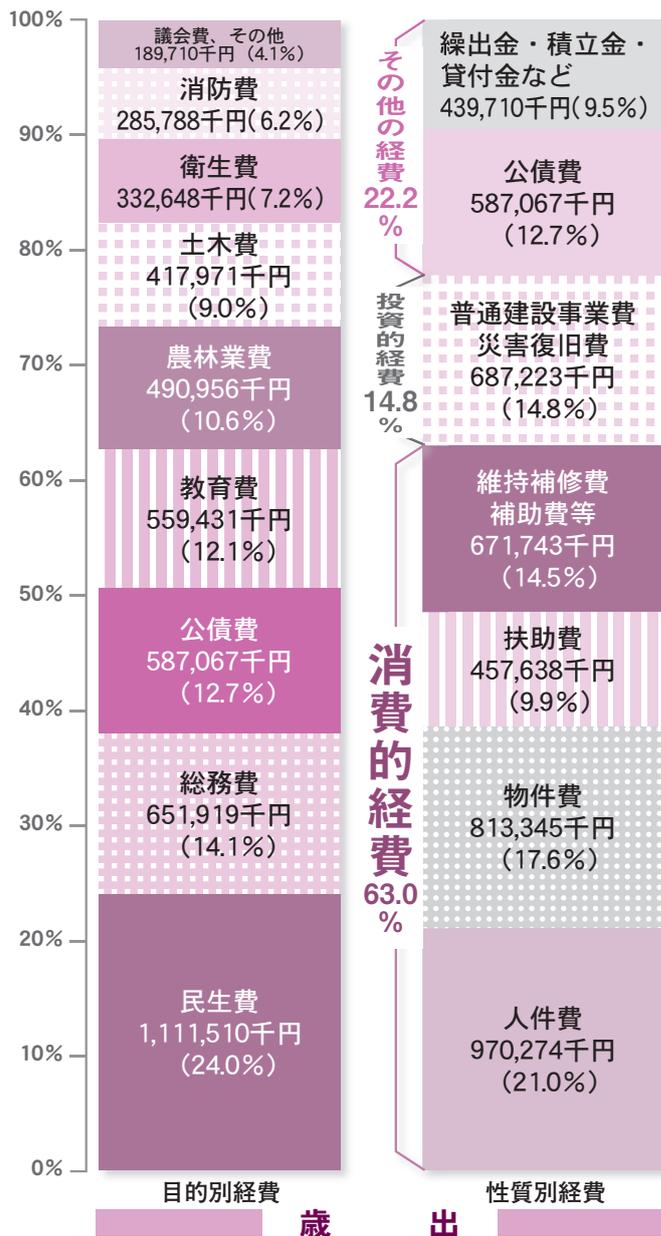
地域交付金に期待

予算審査特別委員会
委員長 瀧本正徳

29年度は、少子高齢化、人口減少が進む当町の、人口ビジョン・総合戦略・総合計画実践2年目となる。集落支援員・地域おこし協力隊を配置しての「小さな拠点づくり」、地域の裁量で活用できる「地域交付金」は、住民が主役の町づくりに期待が大きい。町民の健康づくりに向けた健診受診率向上や糖尿病対策は地域医療と介護、保健活動のあり方が示された。町の主産業である農林業では、持続可能な基盤づくり事業が盛り込まれ、自然災害対策や子育て支援の充実に配慮された予算編成となっている。審査の結果は、総予算が原案どおり可決された。町の将来を見据え、住民満足度を高める行政サービスが更に望まれる。

一般会計 予算総額

民生費 191,178円 	総務費 112,129円 	公債費 100,975円
教育費 96,221円 	農林業費 84,444円 	土木費 71,890円
衛生費 57,215円 	消防費 49,155円 	議会費・その他 32,630円 議会費、労働費、商工費、災害復旧費、予備費



反対
 回収方針を明確に
 佐々木春一議員

木工団地2事業体の経営安定化が求められる中、経営体に対する債権回収方針が明確に示されていない。
 国保税や介護保険料の負担が重い中、医療費や介護利用料の引き上げが見込まれる。国保税や介護保険料の引き下げなど町民負担軽減を求め反対する。

賛成
 諸施策に意欲的
 佐々木初雄議員

地域づくりの財政支援に向けた地域交付金。気仙川への洪水監視カメラの設置。乳児保育のための世田米保育園増築。農林業・商工業の産業振興施策の推進など。
 優先度に応じた予算配分がなされ、諸施策に意欲を感じる予算であると評価し賛成する。



△ 気仙川洪水監視カメラを増設

■特別会計 予算総額 **21億4042万円**

会計名	予算額
国民健康保険特別会計	904,462千円
簡易水道事業特別会計	182,092千円
下水道事業特別会計	86,541千円
介護保険特別会計	894,760千円
後期高齢者医療特別会計	72,568千円

質疑

予算審査

特別委員会

ここが聞きたい

29年度の一般会計、各種特別会計は、予算審査特別委員会（委員長・瀧本正徳議員）に付託し、審議しました。

審議は町政の全般にわたり、数多くの質疑がありました。

その中から、いくつかをお知らせします。



5地区に配置された集落支援員・地域おこし協力隊(辞令交付式の様子)

企画財政課

財政運営の健全化確保

問 財政調整基金などの基金の状況と起債の償還計画の財政見通しは。

答 新年度予算編成での各事業の財源確保は、国・県による補助金、後年度における交付税措置の有利な起債活用、財政調整基金を初めとする各種基金の現在高などから財政運営の健全化が確保できる。

問 町財政の歳入に見る依存財源が70%になっているが見通しは。

答 地方交付税は、縮小の議論もあったが、子ども・子育ての充実に向けての交付税が確保された。義務的経費の人件費、公債費の削減する一方で扶助費が増加している。

保健福祉課

生活習慣病に本腰を

問 地域医療の核となる県立住田地域診療センターの充実を図るべきだが。

答 開業医の閉院もあり、診療センターの重要度が高まっている。地域包括ケアシステム、認知症対策の核としての役割発揮が期待される。入院ベットの復活、訪問診療、訪問看護の充実を提案している。

問 別の事後指導、実態を周知徹底していく。
糖尿病の罹患率及び人工透析者の数は。

答 国保被保険者1267名のうち292人が糖尿病関連の有病状況で23%となる。透析の方は27年度で24名である。

中心地域活性化の見通しは

問 中心地域活性化としての「重要伝統的建造物群」の登録に向けた見通しは。

答 世田米の町並み保存、整備により、魅力を高め、交流人口の拡大やにぎわいづくりに向けて、歴史と景観を生かした町づくり講座を開催し、町民意識を高める。

問 中心地域活性化としての整備計画は。

答 新年度事業は、中心地域デザイン会議（仮称）により、景観環境など地域住民の意向を受け、開発計画を進める。

問 「まち家世田米駅」は、にぎわいが出始めているが、今後の町並み、昭和橋架け替え、役場周辺

の裁量で使える地域予算制度。各地区に80万円を予算措置する。

答 地域公民館単位の財政的支援として、地域公民館単位の財政的支援として、地域

の裁量で使える地域予算制度。各地区に80万円を予算措置する。

問 当町の医療費が県内ワースト1となっている要因は何か。

答 本町の国民健康保険被保険者の平均年齢が高く、生涯医療費が上がり、療養給付費が高くなっている。

問 罹患率の高い病気とその対策は。

答 生活習慣病からくる糖尿病が多い。対策としては、健診率の向上、個



△ 小さな拠点づくりの核となる地区公民館
写真は下有住地区公民館

農政課

担い手確保に向けて

問 第6次農業基本計画が策定された。強力な農業振興に向けた対策は。

答 若手農業者の自立支援、継続できる環境づくり支援など担い手確保に努める。安全安心農業に集落ぐるみで取り組むなど地域と一緒に農業振興を図る。

問 鳥獣被害対策として、シカに加えて、サル、イノシシの対策を具体化していく必要があるが。

答 サルの生息地域調査や講習会、電気牧柵の実証、センサーカメラの

購入など対策を図る。イノシシは陸前高田市で3頭捕獲したとの情報がある。

問 飼料用米生産拡大事業補助金の内訳は。

答 飼料米生産拡大に町単独で10aあたり2万円

の補助金を支給するもの。農業機械等導入支援事業補助金の内容は、

労働力不足を補う機械導入として、菜種、ソバ、大豆等の収穫のための汎用コンバイン、米のカメムシ被害粒を除去する色彩選別機の購入に対する補助。

町民生活課

河川の水質は良好か

問 各河川における水質環境の状況と対応は。

答 各河川の水質検査は、毎年6カ所、4

回実施。比較的良好的な状態。今後も環境保全対策に取り組む。

問 マイナンバーカードの交付実績は。

答 28年12月31日現在、申請者数740件、

交付者602件、交付率81・4%。町民人口の12・3%が交付申請。

林政課

一貫作業システムを

問 木材価格の低迷により森林所有者への還元や森林整備は十分とは言えない。森林整備の一貫した管理による効率的な施業に取り組みべきだが。

答 一貫作業システムは、造林コスト低減に有効な技術である。新年度から町内林業関係者と検討し、

適切な森林整備、森林所有者への利益還元を実現する林業体系づくりに取り組む。林地流動化再造林推進事業のねらいは。

問 林地流動化再造林推進事業のねらいは。

答 伐採放棄地の解消を図るねらいで、林地

を取得し再造林すると1ha当たり2万円の補助金を交付する。

問 町内の主要幹線国道と県道の改良見通しは。

答 国道397号子飼沢工区、340号川口地区、県道を含めた主要幹線道路の整備促進を引き続き国・県に要望していく。

問 川口から上流部の気仙川本流の護岸整備は。

答 川口から上流部の気仙川本流の護岸整備は、

建設課

幹線道路・河川改良は

問 町内の主要幹線国道と県道の改良見通しは。

答 国道397号子飼沢工区、340号川口地区、県道を含めた主要幹線道路の整備促進を引き続き国・県に要望していく。

問 川口から上流部の気仙川本流の護岸整備は。

答 川口から上流部の気仙川本流の護岸整備は、

教育委員会

文科省の指定を目指して

問 中高一貫教育校設置に向けた今後の取り組みは。

答 なかなか実現に至っていない。新年度は、文部科学省の研究開発学校の指定を目指し、新たな教科「地域創造学」を創設して地域の担い手育成に取り組む。町教育研究所が実施するシンポジウムや研修会、発表会を町民にも公開し、理解と協力を図る。

問 栗木鉄山跡地の整備事業の取り組みは。

問 現在は、大股川から気仙川、川口以南の整備計画が進行。気仙川全体の河川整備は、一般県道釜石住田線の改良と一体となり整備要望していく。

答 平成33年度国指定史跡を目指し、3年間で発掘調査を行う。

問 29年度から小学校に英語教育を拡充するとしているが対応は。

答 新しい学習指導要領になると5、6年生が教科として、3、4年生が英語活動となる。先生方がその準備を進めている。



△ 持続可能な林業経営には施業の一貫作業システムが期待される。



一般質問

3月
定例会

一般質問は、議員が町長などの執行機関に対し、町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などを聞き、報告や説明を求め、疑問点を質すこと。また、議員が主義、主張を述べ提案し論戦します。

一般質問の方法は、1回目は一括して質問しますが、2回目以降は1問ずつ質問する1問1答方式を採用しています。制限時間は、答弁を含めて60分です。

3月定例会では、8人の議員から17件の一般質問が行われ、町政全般について2日間にわたり活発な議論が展開されました。

質問と答弁を要約した内容は、9～16ページでお知らせします。

なお、全文記録（議事録）は、5月下旬から役場庁舎2階の総務課と町ホームページ上で閲覧できます。

我が町政を問う

木工2事業体への貸付金・昭和橋架け替えなどで論戦

ページ	質問者(登壇順)	質問項目
9	林 崎 幸 正	①木工2事業体の経営
10	佐々木 信 一	①農業振興 ②林業振興
11	瀧 本 正 徳	①町政課題－林業振興など ②高齢者施策
12	佐々木 春 一	①農林業振興資金貸付基金の運用 ②学校給食費の無料化と就学援助の改善 ③医療費の適正化対策と保健事業の推進
13	佐々木 初 雄	①昭和橋の架け替え ②木工団地2事業体の償還金・未収金 ③保健医療施策
14	菅 野 浩 正	①行財政運営 ②昭和橋の架け替え
15	阿 部 祐 一	①木工2事業体の償還金 ②中高一貫校の設置
16	村 上 薫	①昭和橋の架け替え ②ILCと町づくり



議員のつぶやき

この問題
早く解決したいも
んだな…

我が町政を問う

はやし
ざき
さち
まさ
林 崎 幸 正 議員

町長／早期の経営安定化を望む

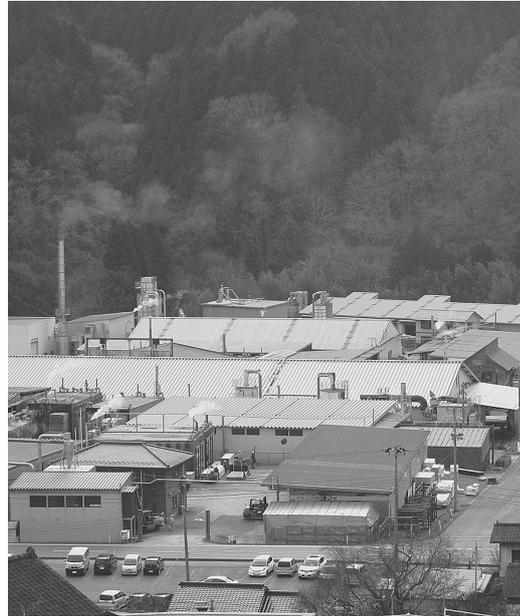
木工事業体の 債権回収は

問 木工2事業体の経営体制をどう考えているか。

町長 現在は支配人と一部理事者の強力な指導のもと、幹部職員が中心に生産性の向上、目標数値の達成に向け取り組んでいる。

問 2事業体の最高責任者が今年2月に亡くなった。融資の返済、立木未収金回収をどのように考えているか。

町長 理事長の選任を早急に決めるよう伝えている。理事者、組合員の方には、事業体の再建、経営の安定化に向けて努力をしていた



△ 早期の経営安定が望まれる2事業体

だきたい。

問 町の債権回収をどのように考えているのか。

町長 平成27年10月から新たな経営生産体制で経営の改善に努力をしている。町としては、早期の経営再建、安定化を図り確実に利

益の上がる体質に改善し、町の債権が納付されることに期待する。

問 催促状の中身はどんな内容か。

副町長 2事業体の理事長宛てに農林業振興資金貸付金未払い償還金の納入で、元金、利子、未払い分の支払催促を行っている。

問 弁護士と相談して早く催促状による請求をするべきと思うが。

副町長 理事者、連帯保証人が集まらない。2事業体としての意見合意が難しいと判断すれば、顧問弁護士

に相談しながら、連帯保証人の方にも請求をしていきたい。

問 町長の任期もあと5カ月しかない。町長が現役でいるうちに、どのような行動をしていくのか。

副町長 町の顧問弁護士に、今の状況を逐一相談をしている。町長の在任中に筋道をつけたいと思っている。

問 三木・ランバーの連帯保証人の人数は何人か。

林政課長 三陸木材は1回

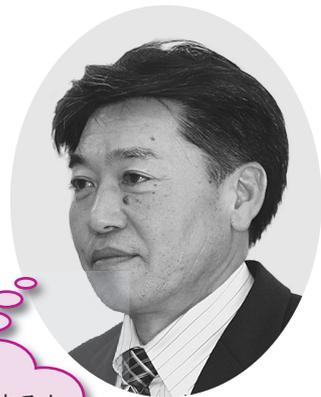
目融資の際は9名、2回目以降は7名、ランバーの最初は7名、2回目以降は5名となっている。

問 理事者だけの責任ではなく、協同組合などで出資している人の責任もあると思うが。

副町長 町としては、連帯保証人がいるので、連帯保証人は債務者と同様。事業体と両方で考えている。



△ 集成材工場を見学する中学生



議員のつぶやき

青色申告をすると特別控除などのメリットがありますよ…

どう活用する 収入保険制度

町長／まずは制度の周知

問 第6次農業基本計画は。
町長 町総合戦略、人口ビジョン、総合計画に合わせ、平成27年度を基準年度とし、中間見直しを31年度、目標年度を36年度と設定し、計画策定の最終作業を進めている。

問 計画の構成はどのようになっているか。
町長 計画の基本方針、性格、期間、体系図などの定義と4つの章で構成される。

問 農業生産の現状と課題をどう捉えているか。
町長 大きく次の3点と捉えている。①農家数と農業就業人口の減少 ②農業経

営規模の縮小と農業産出額の減少、特に耕種農家の減少
③人口減少、高齢化、食生活の変化、鳥獣被害などを要因とする農業者の意欲低下

営規模の縮小と農業産出額の減少、特に耕種農家の減少
③人口減少、高齢化、食生活の変化、鳥獣被害などを要因とする農業者の意欲低下

問 地域の特性を生かした農業の振興と農業生産目標をどのように考えているか。
町長 当町の農業は、狭隘

な土地を生かした高収益作物の組み合わせや畜産と稲作などを組み合わせさせた複合経営の営農類型を例示している。町民所得目標額225万3000円を引用し330万円を36年の目標所得額とした。

問 農業経営の安定化と農業の担い手の確保をどう進めるのか。
町長 現場に足を運び、農家との対話、情報共有を密にし、農家の意欲向上につながる支援策や機械導入などの提案をしていく。60歳以上の農業者が長く農業を維持できる環境整備を図つ



△ 農業経営の安定を目指す収入保険制度を紹介

維持できる環境整備を図つ



△ 活用が求められる林地残材

問 収入保険制度の内容と加入基準は。
町長 さらになる農業の競争力強化のために国が行うプログラムの一つとして、平成31年度開始に向けて準備を進めている。品目の枠に加入できる。
とらわれず、自然災害、価格低下、収入減少も対象とし補填する仕組み。対象者は、5年以上の青色申告の実績を持つ個人・法人の農業者が基本だが、青色申告の実績が1年以上であれば任意加入できる。

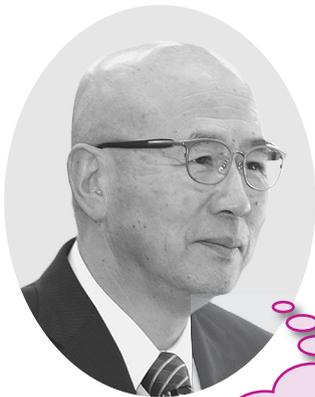
林地材の活用は

供給システムを検討

問 林地材の活用として、商品づくりと販売できる環境整備を進める。
町長 平成27年度から取り組み始め、杉屋台、小・中学校の木製机・椅子製作、新生児の誕生祝に木製スプーンや杉材のベンチ製作などを行っている。今後デザインナーのアドバイスやワーキングの意見を取り入れ、

問 バイオマスエネルギーを活用した新たなエネルギービジョンをどう進めて行くか。
林政課長 未利用材の有効活用、雇用対策や所得向上を図り、需要側の整備と自伐林家の育成と供給システムの検討をしている。

活用、雇用対策や所得向上を図り、需要側の整備と自伐林家の育成と供給システムの検討をしている。

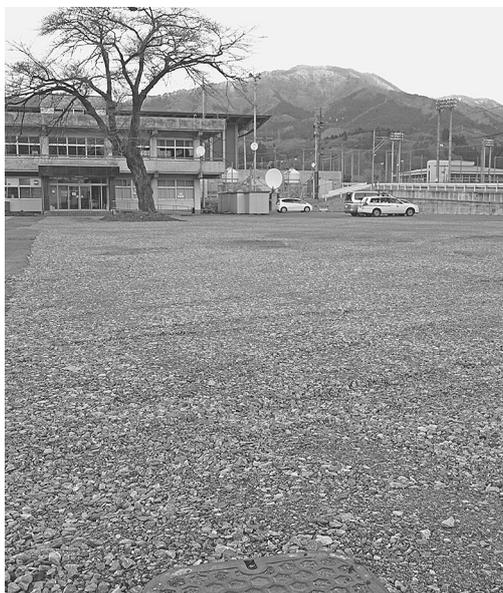


持続可能な林業は再植林がポイント大きな一歩だな…

議員のつぶやき

伐採から下刈り、 一貫作業システムで

町長／実行体制の 確立を目指し取り組む



△示されるべき川向地区整備ビジョン
(旧役場庁舎跡地)

問 持続可能な住田の林業振興施策推進のため、まずは、伐採・地拵・植林、そして下刈りまでの一貫作業システム契約方式で、再植林施策を重点に進めるべきではないか。

町長 一貫作業システムはコスト低減に有効な技術である。29年度から、林業関係者などと検討を行いながら、その実行体制の確立を目指し取り組む。

問 木工団地2事業体への融資の返済や立木未収金問題への対応は、現町長の体制下で道筋を示すべきでないか。

町長 2事業体の再建を進め、債権回収を粛々と行う。早急に、関係者の意見調整を行う。

問 旧役場庁舎の解体を終え、消防分署建設・生活改善センター、そして昭和橋架け替え計画など、川向地区の大規模整備計画が進む。住田町の顔となるようなこの地区の整備ビジョン全体を町民に示すべき。

町長 川向地区は、各種施設の集約・集積を図りながら、利便性に優れた居住空間など、安全・安心で住民満足度の高い生活環境の提供を図るエリア構想で展開を図る。住民との意見交換会など様々な観点から機会を設け、方向性の構築を進めていきたい。

町独自の高齢者区分を ぴんぴん長寿の町に



△活き活きと活躍の年長者人材

問 高齢化が進む当町では、現在の高齢者年齢区分や定義を、国に先立ち見直し、独自の区分で住田らしい高齢者施策を進め、活性化推進を図るべきでないか。

町長 国とは別に、町独自で定義を見直し、施策の推進を図ることは難しいが、いつまでも地域で活躍できるように高齢者施策を進める。積極的な社会参加、支える役割を担う、ぴんぴん長寿の町づくりを進めるべきと考えている。

問 高齢者の交通事故防止策として、免許証自主返納などが進められているが、通院や買い物などでの不便・不安がある。公共交通の充実、タクシー料金補助などの対応を進め、将来不安解消策を検討するべき時でないか。

町長 高齢者の事故防止は重要な課題である。県内でも、高齢者の免許証返納促進事業を行っている。自主返納者への、タクシー券助成やバス乗車料金割引制度などの対応を始めた自治体もある。当町も、地域の実情を踏まえながら、高齢者の移動手段確保などの交通対策、高齢者の集合住宅などの居住対策を総合的に検討を進めていく。

入学準備金の 入学前支給を



自らの健康は自らの責任で、自思いつつも？塩分を減らす努力を…

議員のつぶやき

教育委員長／30年より 入学前に支給

我が町政を問う

佐々木春一 議員

問 子ども・子育て世帯への経済的支援の充実に向け、学校給食費を無償化できないか。

教育委員長 学校給食は、児童・生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につける上で重要な役割を担っている。現時点では、食材料費のみを引き続き保護者負担とする。

問 就学援助の一環である

※就学援助は経済的理由により就学困難と認められる児童・生徒の保護者に支給



△食材に地元産を利用した学校給食メニューは児童生徒に好評

なぜ高い医療費

5人に1人糖尿病

問 国保事業に見る平成27年度の1人当たり診療費は32万2300円で、3年続

けて県内ワースト1である。その実態は。

町長 国保医療費の疾患割

合の上位は、糖尿病と慢性腎不全である。平成27年度では、約5人に1人が糖尿病の患者という状況である。

問 町民への健康づくり意識高揚に向けた保健対策は。

町長 糖尿病対策を最優先課題とし、特定健診の受診勧奨として、40歳を対象に無料クーポンの発行、個別の働きかけを実施する。

木工団地事業効果は

売上70億円・雇用212名

問 木工団地事業体が果たしてきた役割と事業効果の評価は。

町長 木工団地3事業体全体の売上は約70億円。雇用者数は212名。本町の地域林業システムの中核的な役割を果たしてきた。

問 2事業体の資金繰りに従業員や関係職員も融通していると聞か。

町長 承知している。

問 2事業体に経営者が常駐しておらず、業界に精通した人材の常駐が望まれるが。

町長 現在は、支配人と一部の理事者の指導のもと幹部職員が中心となり、生産性の向上、目標数値の達成に向け取り組んでいる。

問 2事業体の理事長が死

町長 町民の責任は、回収するまでである。町林業のため、何としても再建していかなければならない。

※木工2事業体 ①三陸木材高次加工協同組合 ②協同組合さんりくラン



議員のつぶやき

5人に1人が糖尿病とは…
どうすれば防げるか
早く手を打たないと…

我が町政を問う

佐々木初雄議員

町長／法にのっとり

粛々と回収

任期中に木工団地の課題解決を

問 町長は残りの任期が5ヶ月。任期の間全力で取り組むとしたが、残りの任期中には是非やってもらわなければならぬ最重要課題は、町民が最も関心を持っている木工団地2事業体の債権回収である。どう進めるか。

町長 支払う側の事業体はその経営体制を早くつくること。そして法に基づき粛々と回収をするためのやり方を進める。

問 債務者の理事長が亡くなり、速やかに債務者の変更手続きが必要があるが。

林政課長 今のところ変更



△経営の安定化が望まれる木工団地

していない。

問 理事会を開かないのであれば、個別に会って債務者（理事長）の変更手続きを。

町長 理事会を開く権限は私にはなく、理事でやって

いただく。

問 経営者・保証人として支払う責任・義務があるの

町長 債権の回収について

は、権利者なので法にのっとり進める。

問 住民説明会、住民と議員との懇談会を行った。それを受け、今後の対応、方向性を一致し、事業体と計画を確実に実施して行くための方策を進めるとしていたが、一向に進んでいない。

町長 責任主体が事業体であり、考え方やどうしようとしているのかを捉えなければならぬ。催促状を出したが、理事長が亡くなりその返事が来ていない。それらを含めた協議で時間がたっている。

医療費ワースト1からの脱出は

受診率向上と効果的な保健指導で

問 国保医療費が3年連続県下ワースト1となっていて健康寿命を延ばし、医療費の適正な水準を維持するために、生活習慣病対策が重要だがその取り組みは。

町長 被保険者の高齢化や生活習慣病の増加、医学・医療技術高度化による医療費の増加で、一人当たりの医療費が3年連続県下ワースト1の状況。糖尿病対策を保健事業の最優先課題として、特定検診の受診率向上に努め、効率的で効果的な保健指導の実施に取り組む。

問 昨年閉院した世田米の開業医院の見通しは。

保健福祉課長 経営母体を探しているが、受け入れ先が、まだ見つかっていない。

問 昭和橋、車両のすれ違いが出来ず、歩行者の危険が伴う。今の橋を歩道付2車線化が必要と思うが。

町長 昭和橋は、世田米商店街と川向地区を最短でつなぐ橋。防災・救急など安心・安全第一に事業実施主体の住田整備事務所と町民の声を聞きながら、ルートや町の財政など検討する。



△防災に備え安心・安全な橋を



議員のつぶやき

5地区の地域おこし協力隊の連携も大切だと思う

重点施策と 主要な新規事業は

町長／小さな拠点づくりを 積極支援

問 平成28年度の主要施策・事業の目標に対する成果は。

町長 目標値に対する実績は、住民交流の拠点として整備した「まち家世田米駅」の営業開始や旧菅野家住宅の「国登録文化財」決定の方向、食いくプロジェクトで開発した「すみたっ子給食」の全国表彰など、徐々にあるが成果として表れてきている。

町長 アンケート調査の際

対象住民の多数の方が総合戦略の施策や事業を初めて知ったという答えもあった。周知が町民の皆さんに行き届かない実態があった。い

学校給食・社員食堂部門

佳町食いくプロジェクト殿

あなたは第九回地産地消給食等メニューコンテストにおいて優秀な成績をおさめましたのでこれを賞します

平成二十八年十一月八日

△ すみたっ子給食メニューが全国表彰

かにしてこれらを住民に知っていただくかが課題である。

問 新年度予算編成に当たって、重点施策と主要な新規事業は。

町長 特徴的なものとして町内5地区がそれぞれ特色ある地域づくりを推進できるように、29年度から全地区に「地域おこし協力隊員」が配置となる。

地域の裁量で活用できる地域交付金を新たに設け、本格化する地域の特徴を生かした「小さな拠点づくり」

を積極的に支援していく。**問** 移住・定住を拡大するための住宅政策は。
企画財政課長 住宅新築補助、住宅リフォーム補助と内容を拡充し、子育て世帯、移住者に手厚く制度改正し、取り組んでいる。リフォームによる改修、空き家バンクへの登録など総合的に進めながら移住、定住対策を進めたい。

町民所得向上対策は 食・木いくプロジェクト推進



△木いくプロジェクトでデザインされた机・椅子は、町内小・中学校に配置

問 町民所得の向上施策として食いくプロジェクトをどう進めるのか。

農政課長 「すみたっ子給食」の全国表彰などもあり、給食のメニューからの商品化などに今後取り組み、所得向上に努めたい。

問 木いくプロジェクトは、

農政課長 地元の木工製品をつくる関係企業との連携が進んでおり、木工製品づくりにかかわる企業との連携による商品づくりを今後進めていく。



理事・保証人は 当事者意識を

町長／債権回収に努力

粛々と
回収を進めるべき

議員のつぶやき

我が町政を問う

阿部祐一議員



△順調な製品出荷だが…（三陸木材高次加工）

問 昨年11月に開催された三木・ランバーの経営状況について住民懇談会が開催されたが、町長はどう感じているのか。

町長 出席された町民の方々の多くは、町の債権の未納が生じていることは遺憾に思っているが、再建してほしいと言っているのが大半の意見であったと捉えている。

問 平成19年10月に経営危機に陥ったが、前年の4月に最初の1億2千万円が融資されている。経営状況の把握は適切に行われたのか。

町長 農林業振興資金を貸し付ける場合、町長が諮問する審査委員会を開催している。提出された資料をもとに厳正に審査され、貸し

付けは適正であるとの答申を得て融資を決定した。もちろん議会の承認を得た上で行われた。

問 町長は2事業体の理事、連帯保証人には当事者意識を持ってほしいとしている。経営者責任を明確に示すべき時が来ているのではないのか。

町長 町では2事業体に催促状を出している。理事長が亡くなられたこともあり、回答はまだ示されていない。2事業体の理事者、組合員に経営者としての責任を履行していただく。町は債権の回収に今後も努力をしていく。

問 平成19年度中に5億円以上の赤字が出たが、2事

業体の監査役員も監査責任があると思うがどうか。

副町長 民間の会社であら

ば監査責任はある。理事、監事の方々が経営の債務責任を考えて欲しい。



△森の保育園で園児と交流する住高生

今後の中高一貫校への取り組みは

町外自治体との連携を強化

問 中高一貫校の設置要望が出され16年が経過している。この間、一関市には併設

省指定の研究開発学校の指定を目指している。

型の中高一貫校が設置された。今後、実現に向けてどのように取り組むのか。

この中で新たな教科、「地域創造学」を創設して地域の担い手を育成する取り組みを進化させ中高一貫校にリンクさせたい。

教育委員長 平成21年4月

に開校した一関一高附属中学校に入学した生徒が卒業して3年が経過する。その

成果もある程度検証されていることから、新たなタイプを含め中高一貫校の設置に弾みがつくものと期待している。これまでの町の取

組に加え、現在、文部科学省でこの運動を展開してきたが、県を動かすには全県的に広めたい。町外自治体関係者との対話を始めている。

教育長 今まで住田町独自

に広めたい。町外自治体関係者との対話を始めている。

組に加え、現在、文部科学

省でこの運動を展開してきたが、県を動かすには全県的に広めたい。町外自治体関係者との対話を始めている。

昭和橋

将来を見据えた判断を



ご協力を頂けるのであれば、現在地に拡幅が理想だが…

議員のつぶやき

町長／様々な観点から検討

我が町政を問う

村上

薫 議員



△2m嵩上げになったイメージ共有が議論のスタートライン

昭和橋の架け替えは、安全・安心な町づくりを最優先とし町の将来を見据えた活発な議論が必要である。

問 県は、当初の計画を大幅に前倒しし、平成29年度から調査設計に入る旨表明した。町の迅速な対応が必要だが、工程計画をどう考えているか。

町長 完成目標は平成34年から36年度。29年度は、合意形成の作業を早々に開始できるように、住田整備事務所と打ち合わせをしている。

問 新消防住田分署が役場そばに来る。防災上と救命救急の観点から、昭和橋をどのように捉えているか。

町長 世田米駅や商店街と川向地区を最短でつなぐ橋であり、防災上・救急上も重要な役割を果たす橋である。

問 現状の昭和橋は、交通弱者（児童生徒、高齢者、障がい者）にとって大きな支障がある。交通安全上と生活の足の観点から新昭和橋をどう考えているか。

町長 町民との意見交換会では、歩道付きの2車線の橋として架け替えることや拙速な事業推進をしないことの要望が出された。

問 「森林・林業日本一」を目指す町に相応しい発想豊かな日本一美しい木造大

どう生かす ILC 効果 独自性や特色の発信を期す



△約400人が参加し、ILCの最新情報に耳を傾けた。(奥州市文化会館)

橋を造り、町の将来を見据えた判断と町づくりをすべきではないか。

町長 安全・安心を第1に、木造橋を含め様々な観点から検討を進めて行く。

今年末か来年、日本政府のILC北上山地誘致可否の大きな判断が示される。

問 ILCに対し町は今後どう取り組む考えか。

町長 昨年度策定した総合戦略・総合計画により、住民意識の醸成促進させる施策を重点施策及びプロジェクトとして取り組む。

問 ILC効果をどう町づくりに生かす考えか。

町長 ILC関係の外国人を含めた、人・情報・物の動きを効果的に取り込むためには、その土地の独自性

や特色をいかに発信できるかである。これら施策・事業展開の一層の充実を期していく。

問 当町には県内の中で国際交流協会という民間の組織が無い。育成とILCへの準備をして行くべきではないか。

教育長 国際交流協会は民間主体が良いと考える。社会的なニーズの高まりの中で教育委員会として、生涯学習あるいは社会教育の観点から支援をしていきたい。

※ ILC (国際リニアコライダー) : 世界中の数千人もの科学者が、実現に向けて20年以上も研究を進めてきた、全長30km以上もある直線型加速器をつくる計画。宇宙誕生の謎に迫る世界最先端の実験施設。



△住田高校2年生35名が町議会一般質問を傍聴（3月3日）

去る3月3日、住田高校2年生35名が、「主権者教育」取り組みの一環として、町議会3月定例会一般質問を傍聴しました。

一昨年6月、選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が、成立しました。昨年夏の参院選から「18歳以上」の投票が実施され、早速主権者として1票の権利行使が行われました。

町議会は、今後ともこのような機会を持ちながら関係機関と連携し、「主権者教育」の一端を担って行きたいと考えています。

議会
傍聴

主権者の自覚

住
高
生

傍聴後のアンケート



Q 今回、議会を傍聴しての感想を。

① 初めて町の議会を傍聴し、町づくりや政治について理解を深めることができました。

私も18歳になったら選挙ができるので、今回学んだ事を生かし、自分の町をより良くできる人に投票して行きたいと思います。

次の機会があれば、その時もしっかり話を聞きたい。
(男性)

② 初めて議会傍聴をさせていただきました。言葉が難しいこと、多くの知識を要すること、世の中に目を向け把握しておかないと、このような厳粛な場で冷静な答弁は本当に難しいと感じました。

医療や保健の中で”透析”という言葉が沢山使われていましたが、何か分からず調べて理解しました。これから身近な地域問題や新聞などに目を向け、社会の一員として意識を高めて行きたいと思いました。女性がもう少しいても良いと思います。

(女性)

③ 議会を傍聴してみて、私達が知らないところで町長さんをはじめ、沢山の議員さんが町がもっと良くなるように、今抱えている一つ一つの問題を具体的に示し、一つずつ改善できるように長時間議論していることが分かりました。

昭和橋や木材関係など、どれも気になる問題でしたが、少しずつ進めて行ってほしいです。

貴重な経験ができ本当に良かったです。私達若い世代も、微力ながら住田に貢献できれば良いと思いました。
(女性)

④ 今回、議会傍聴は住田町のことを聞いたが様々な問題を抱えていると思った。この話し合いをして終わるのではなく、結論に至って、行動に移してくれることを期待しています。

自分が住む町の議論を聞いて、どこが問題で、どこを改善すればよいかをもっと聞きたくなりました。

今回の話を聞いて、政治に少し興味が湧きました。
(男性)

一般質問その後 どうなりました

あの提言

一般質問は、議員に与えられた重要な権限の一つですが、ここでは、一般質問のその後「どうなりました あの提言」として、過去の一般質問や議案審議などが町政にどう反映されているのかお知らせします。

掲載内容は、平成18年以降の質問から議会広報編集常任委員会で1項目を選び、その後の状況などを追跡しました。

特集

町と、議会と、町民は
⑤8

質問

第6次農業基本計画は

地域の特性を生かした農業の振興と担い手確保対策を含む基本計画の策定は。

答弁

長く維持できる農業環境を

策定の準備中、狭隘な土地を生かした高収益作物を組み合わせた複合経営。中山間地域等直接支払制度など活用し、長く農業を維持できる環境整備と若手農業者・後継者への円滑な継承を図る。

その後

これからが
大事

担い手農業者に 熱い支援

28年度末に策定し、青年農業者給付金、担い手農業者経営支援事業などの活用。農家住宅、遊休農地の情報を集約し、移住・定住による担い手確保を進める。



△遊休農地解消と6次産業化が進められている菜の花栽培

追跡



私の意見を聞いて!

営農組合を法人化に

吉田 敬一 さん

(下有住字中上)



下有住高瀬地域では、平成22年から7カ年で農地の基盤整備事業により区画整理を行いました。

最近、農業従事者が減少し、耕作されない農地が増えてくることから「高瀬営農組合」を立ち上げて稲作に取り組んでいます。

現在の耕作面積は、水稻10・6ha(うち6・0haは飼料米)。また、田植えと刈取りの作業受託が4・0ha程です。

作業員確保や機械の維持管理が課題です。国や県の事業を行うためにも組合の「法人化」が必要であり、平成30年2月の設立に向けて準備を進めています。

自家産物を “ぽらん”で販売

中井 松子 さん

(世田米字津付)



今年も暖かくなり、今の時期は畑の草も取りやすいので草取りを始めています。

鳥・シカの被害に悔しい思いをしながらも、畑を荒らしたくない、孫たちの小遣い稼ぎにと思い、家族に支えられながら畑仕事をしています。

冬期間は、大根のビートル漬け・凍みダイコン・梅干し・きび粉など自分の家で収穫したものを加工し、「道の駅ぽらん」で販売しています。

最近は畑づくりをする人も少なくなり、すみた山ヶ原直売組合員も減少し、組合の運営、農業後継者のことなどを心配しております。

県町村議会 広報コンクール

3席に 入選

議会広報コンクールは、14町村議会からの応募があり、2月22日開催の理事会において決定されました。

平成14年の入賞に続き2度目となります。

審査員の講評では、

- ・ 全体的に議会の中身が良く分かる工夫をしている。
- ・ レイアウトは、ある程度の余白を意識し「余白の美」が大切。

とのご指摘を頂き、今後の紙面編集に活かしていきたいと思えます。

特選は、やはば議会だよ198号でした。



△入賞した「すみた議会だよ155号」

傍聴に

来てけらっせん!!

次回の定例会は6月13日(予定)から
開会は10時です。

詳しくは議会事務局へ ☎ 46-3754 (直通)
E-mail gikai@town.sumita.iwate.jp



上有住字平沢

水野 巧さん

私も ひとつ 甘口 辛口

77

上有住字中井

松田ひろ子さん



道路補修早めに

●今活動していることは

林業に従事して約20年になります。木に携わる傍ら柚遊会の写真撮影などの記録係をしています。

散策が好きなので良く野山に行き山野草や小鳥を写真に収めています。

●気になっていることは
林業従事者の高齢化・担い手不足です。管内では大分若

い人も増えて来ていますが、町内では若い人が少ないと感じています。

●議会や町に望むことは

仕事柄いろんな沢々に入りますが、林道等の破損が多く見られます。道路の補修が遅いと感じています。もう少し沢々を見回ってほしいです。また、ゴミの不法投棄も見られず、非常に残念に思います。



△柚遊会といえばチェーンソーアート

上有住地区公民館の改修を

●今活動していることは

両向婦人部長を一年間皆様の協力のもと終えることができました。

食の匠では、めんこいテレビのおばあちゃんの台所のコーナーで小豆ぼつとうを紹介することができました。

また、JA女性部でカブリーナやうでぬき等を縫ったり、家の光を活用した料理

理講習会や、焼き肉のタレ作りを行いました。

●議会や町に望むことは

料理講習会などで上有住地区公民館を利用します。水の問題やガスコンロなど古くなつて使えない物もあります。

子供たちも一緒に料理することもあります。改修工事をお願いします。



△食の匠として料理講習会

表紙の写真 有住保育園



青空の下元気いっぱい遊ぶ子供たちです。先生の合図で、色々な色にタッチする遊びをしていました。

次の色を予想し先回りしようと思いますが、子供たちの動きにはなかなかついていけません。それでも、突如の訪問にもかかわらず、とびつきの笑顔がカメラに向けてくれました。
帰り際には、「また来てね」とみんなでお見送りしてくれました。

あとがき

この冬は、雪が少なく除雪費は大幅に減少。町財政にとっては良いことでも、水不足で生活に困っている方々も出てきています。今後恵みの雨も必要です。

3月議会一般質問は、昭和橋の架け替えや木工2事業体への融資未償還金や町有林立木未収金への町対応に多くの質疑が出されました。現町長任期中の方向付けが必要です。
新年度、老いも若きも何

かしら春の新鮮な芽吹きを感じます。町の職員体制も新しくなり、議会と行政がそれぞれの役割を果たしながら町民の期待に応えなければいけません。
(村上 薫)

広報編集常任委員会

- 委員長 村上 薫
- 副委員長 佐々木春一
- 委員 菅野 浩正
- 委員 瀧本 正徳
- 委員 佐々木信一
- 委員 佐々木初雄

発行責任者

議長 菊池 孝



すみた 議会だよりNo. 157

平成29年4月28日発行

発行/住田町議会
編集/広報編集常任委員会

F029-2396 若手県気仙郡住田町世田米字川向88-1
TEL 0192(46)3754(直連) 内線511 FAX0192(46)2018
http://www.town.sumita.wate.jp